

あいさつ
—新年のご挨拶—

謹んで新年のお慶びを 申し上げます

よろこ



新年おめでとうございます。皆様方におかれましては、希望に満ちた新年を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。この度、4期目の市政運営のかじ取りを担わせていただくことになりましたのでよろしくお願いたします。さて、昨年は、全国屈指のマグロの水揚げ地であるこの焼津で、マグロの魅力を広く皆様に知っていただくため、「鮪フェス」を初めて開催したほか、本市の地場産品を活用した「ふるさと納税」についても、全国から引き続き多くの寄付をいただいております。一方、原油などの原材料の高騰により、日常生活のみならず、水産都市として発展してきた本市の各種産業にも大きな影響と変化を及ぼしています。加えて、近年のデジタル技術の進展は目覚ましく、コロナ禍をきっかけに進んだりリモートワークやオンラインサービスなどの一般化、その後の生成AIの急速な普及は、人々の行動、価値観に大きな影響を与え、今後、ますます進んでいく人口減少や少子高齢化の中、地域の課題解決と経済発展を図るために、デジタル技術の活用が一層必要となってきております。

このような時代の変化に対応すべく、本市では、DX推進計画を策定し、誰もがより豊かで暮らしやすい社会の構築を目指して、電子申請手続きの拡充やデジタル通知の活用など、行政サービスのデジタル化に取り組んでいるところです。「スマートシティ YAIZU」の推進や「ノーコードツール」・「生成AI」の活用などにより、今後も一層の業務効率化と市民サービスの向上を図ってまいります。今年の市政運営目標（今年の漢字）は「興」（おこす・こう）としました。コロナ禍後の混迷化し複雑な問題が出ている中、人とのつながりを深め、手を取り合って助け合い、支え合う焼津をつくり、新しいことに挑戦する、新しい物事を始めることで、焼津市がさらににぎわい、活気あるまちづくりとなる思いを「興」の一文字に込めております。

結びに、本年がより良い年になりますよう皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念し、年頭のあいさつといたします。

焼津市長 中野弘道



新年おめでとうございます。新春を迎え、市民の皆様のご健勝を心からお慶び申し上げます。平素は、皆様方のご理解とご協力により、市議会の円滑な運営ができますことに心から感謝申し上げます。また、昨年1月1日に発生した能登半島地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。本市におきましては、8月に発生した台風10号による冠水被害など、被害を受けた皆様に心よりお見舞い申し上げます。昨年の大きな出来事として、パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会が7月から9月にかけて開催され、多くの選手の活躍を見ることができ、大きな感動と力をいただいたのではないかと感じております。

焼津市は昨年3月末にモンゴル国チンゲルレイ区と友好都市提携を締結し、今後さらにさまざまな分野において友好の輪が広がっていくものと感じております。また、昨年7月には、大井川港開港60周年を記念して太平洋の白鳥と称される大型練習帆船「日本丸」が大井川港に初寄港し多くの見学者に訪れていただくなど、さまざまな機会をとおして市の情報発信に努めていただいております。市議会におきましては、初の取り組みである議会報告会を開催し、市内にある4つの高校のうち、私立焼津高校の生徒の皆様に対し議会報告・意見交換を行いました。さらに、今年1月には県立焼津水産高校の生徒の皆様との意見交換などを予定しており、今後も市民に開かれた議会として身近に感じていただけるよう取り組んでまいります。

目まぐるしく状況が変わる時代の中、市民の皆様と行政および議会が協力し合い行動していくことで、魅力と活力のある地域社会の実現につながるものと信じております。市議会といたしましては、市民の皆様の声に耳を傾け、信頼される議会を目指し一層の努力を重ねてまいります。

新しい年が市民の皆様にとりまして、明るく実り多き年でありませう心からお祈り申し上げますとともに、本年も相変わらずご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

焼津市議会議員 石田江利子

新春企画

特別対談

焼津市地域おこし協力隊

岩崎美沙 × 市長

新たな年の幕開けに、「焼津市地域おこし協力隊」の岩崎美沙さんを迎え、中野市長と対談を行いました。焼津市への思いや今年の目標などを語っていただきました。問合先 シティセールス課 ☎626-2145



岩崎美沙さん

市内観光施設での意見交換

観光客向け体験プラン開発の打ち合わせ

市長 岩崎美沙さんには、「焼津市地域おこし協力隊」として、昨年8月1日に京都から焼津に来ていただきました。若い世代として、また、焼津市の外から見た視点・感覚で、SNSを用いた情報発信にご尽力いただいております。

—焼津市の印象—
市長 焼津市に住んでみての印象は。

岩崎 「魚がおいしい港町」という、市外の人から思うイメージどおりの素敵なまちだと感じました。住んでみて特に嬉しく感じたのは、人の温かさですね。地元・京都では、観光地ということもあり、気軽にまちの人と話すということはあまりありませんでした。焼津では、例えば市役所本庁舎前の足湯に入っていると、横に座った人と気軽に会話が生まれ、いつの間にか笑顔になる。そういった人の優しさ・温かさが焼津の魅力の一つだと感じます。焼津漁港や大井川港、石津浜など、海の景観もお気に入りになりました。

—昨年を振り返って—
市長 「地域おこし協力隊」としての昨年の活動を振り返り、印象的なことなどはありますか。

岩崎 「地域おこし協力隊」は、地域外の人材が、地域協力活動を行うことで地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした総務省の制度です。私はSNSなどインターネットでの情報発信を得意分野としておりますので、昨年は焼津市観光協会 InstagramなどのSNSを通して焼津市の魅力を発信することに力を入れて活動しました。市内のさまざまなイベントに取材に行かせていた

だいたり、企業の皆さんからお話を聞かせていただいたりし、それらを記事にまとめてSNSで発信させていただきました。取材を通して地域の皆さんと触れ合うことができたことが非常に印象的です。

市長 さまざまなイベントで岩崎さんの笑顔をお見かけします。焼津のPRにご尽力いただき誠にありがとうございます。

—今年の目標—
市長 今年の抱負・目標をお聞かせください。

岩崎 2025年も、引き続き焼津市の魅力発信に全力で取り組みます。現在実施しているSNSでの魅力発信のほか、焼津市に訪れていただく「交流人口」を増やすため、観光客向けの体験プランの開発・公開を進めていきたいです。市外出身者だからこそ気が付く焼津の魅力の形にし、市外や県外に向けてPRしていきたいです。

市長 観光客向けの体験プランとは、具体的にどのようなことを考えていますか。

岩崎 焼津には歴史や伝統ある企業や工場がたくさんあり、職人の伝統技が継承されています。働く人の息遣いやこだわりが感じられる工場などは、市外・県外の人からは魅力的に映るのではと感じています。そのような工場などを巡るフォトツアーなどが、観光の新たな魅力になると考えています。

まだ、市内の企業・工場や観光施設などの皆さんからお話を伺いながら構想している段階ですが、実現に向けて前に進めていきたいです。

市長 焼津の人が当たり前と思っているものが、実は魅力的な地域資源だということはあると思います。外の目線で焼津の魅力を伝えていただくと大変ありがたいです。

—将来の夢—
市長 将来の夢をお聞かせください。

岩崎 目の前の目標達成に向けて全力で取り組んでいる最中で、将来の明確な夢などは模索中ですが、焼津の中小企業の皆さんをサポートするような仕事に従事したいと思います。

—市民へのメッセージ—
市長 市民の皆さんへのメッセージをお聞かせください。

岩崎 焼津の魅力をたくさん教えていただくと嬉しいです。市民の皆さんと一緒に焼津を盛り上げていきたいです。

市長 行政とは異なる視点・立場から、柔軟な地域おこし・地域活性化をしていただくことを期待しています。今年のご活躍を楽しみにしています。

profile

岩崎美沙（いわさき みさ）

焼津市地域おこし協力隊（交流人口拡大支援）に昨年8月に着任。京都府京都市出身の26歳。SNSを用いた情報発信やWEBマーケティングを得意とし、若い目線、市外出身者の目線から焼津の活性化に取り組む。



焼津市観光協会 Instagram

焼津市長選挙

現職の中野弘道市長が4選

任期満了に伴い、先月8日に告示された焼津市長選挙は、先月15日に投票が行われ、現職の中野弘道市長が当選（4期目）しました。

任期は昨年12月24日から4年間で、問合先 選挙管理委員会 ☎626-1134



当日有権者数 110,925人
投票者数 42,701人
投票率 38.50%（前回は3.90ポイント減）
候補者別得票数（敬称略）
● 中野弘道 26,779票
● 真崎英彦 15,527票
● 無効投票数 395票

当選証書付与の様子

令和7年 市政運営目標

～ 今年の漢字 ～

市では、毎年、市政運営目標を漢字一字で表しています。今年の市政運営目標（今年の漢字）は「興」（おこす・こう）としました。

コロナ禍後の混迷化し複雑な問題が出ている中、人とのつながりを深め、手を取り合って助け合い、支え合う焼津をつくり、新しいことに挑戦する、新しい物事を始めることで、焼津市がさらににぎわい、活気あるまちづくりとなる思いを「興」の一文字に込めています。

